

供給設備の技術上の基準

(容器による貯蔵で、貯蔵能力が1,000kg以上3,000kg未満のとき添付)

1. 保安距離	①第1種保安距離 (法定16.97m・障壁設置 0m) 実際_____m 保安物件の名称_____
	②第2種保安距離 (法定11.31m・障壁設置 0m) 実際_____m 保安物件の名称_____
2. 障壁	①障壁の構造 材料_____寸法 (高さ) _____cm (厚さ) _____cm ②扉の構造 材料_____ (厚さ) _____cm ③扉の補強 等辺山形鋼 (枠) _____mm×_____mm (内) _____mm×_____mm 間隔 (縦) _____cm (横) _____cm
3. 火気等との距離	①火気等の種類_____火気等との距離_____m ②火気距離が5m未満 障壁 (材料) _____ (高さ) _____m
4. 滞留防止	①貯蔵設備面積_____m ² 法定換気口面積_____cm ² ②実際の換気口面積_____cm ²
5. さく、 へい等の設置	①さく、へい等の種類_____
6. 警戒標	①掲示位置_____
	②表示内容_____
7. 消火設備	①粉末消火器 A_____ B_____×_____個 ②その他_____
8. 軽量の屋根等	①屋根の場合その材料_____
	②遮へい板の場合その材料_____
9. 転倒防止等 の措置	①貯蔵設備の床は水平で、かつ上から物が落ちる恐れがないようにする。 ②転倒防止チェーンによる転倒防止措置を講ずる。
10. 腐食防止措置	①容器は十分に防錆塗装がされたものを使用する。 ②貯蔵設備は排水のよい構造とし、容器の底部を乾きやすくする。